

元気アップみのり

2018年(平成30年)

秋の号

発行 特定非営利活動法人 元気アップみのり

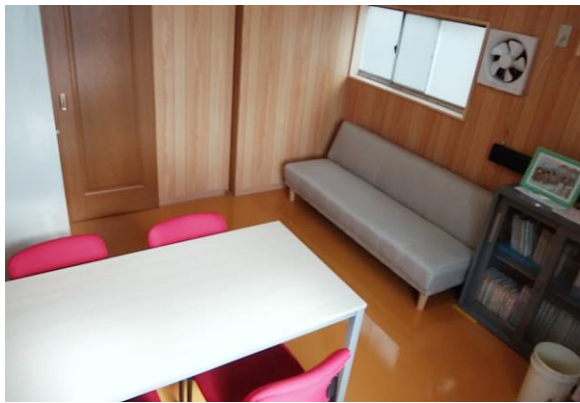
住所 〒678-0052 兵庫県相生市大島町 3-4

電話 0791-22-1330 Fax 0791-22-1347 <http://genkiupminori.com>

【註】一般財団法人長谷川福祉会…電子機器には欠かせない水晶振動子のメーカー(株)大真空の創業者、長谷川一夫・實雨氏の寄付で設立された財団で、平成4年以来、障害者施設・団体等に毎年助成金を通して障害者福祉を資金面からサポートする活動を行なっています。昨年度の助成金交付実績は、21件1,203万円とのこと。 (H.P.より)

長谷川福祉会の助成金で念願の ミーティングルームを新設!

作業所東側の物置きに使っていた部屋をミーティングや個別面談にも使えるきれいな部屋に改装しようと考え、建築業者の見積もりをとって、7月に一般財団法人長谷川福祉会(註参照)に対し、改築費用の一部を助成いただくよう申請していました。それがこのたびめでたく審査を通り、希望したとおりの額、金百万円を支給していただきました。



一新された部屋の内装と新しい机・椅子等の家具

した。早速、業者を呼んで工事にかかり、内装は10月末迄に完成、続いて机や椅子・ソファ等の家具類も新調することとし、こちらは自己資金なので目下慎重に一つずつ揃えて行きたいとあります。日頃はいつも作業に追われてなかなか利用者の皆さんともゆっくり面談もできず、「これで福祉の施設と言えるのか」と内心忸怩たる思いでしたが、今回の改装を機に福祉の面をもっと充実させて行きたいと考えています。ともあれ長谷川福祉会さんに感謝です。

訪問ルポ「まいごです!」

播磨特別支援学校(たつの市揖西町 中垣内乙二三五)を訪ねて

10月初め、たつの市にある播磨特別支援学校から要請があり来春卒業見込みの男子生徒一人が四日間の実習に来ました。そのご縁で去る11月14日に開かれたオーブンスクールへお招きをいただきましたので早速取材に行ってきました。

テクノにある西播磨特別

支援学校は10年程前にできた新しい学校ですが、こちらは創立以来50年もの歴史があり、現在 肢体不自由と知的障害の生徒一七八名が学ぶ高等部のみでの支援



校舎の正面玄関と通学用のバス

ビニールハウスでは正月の葉ボタン作りが



学校で寮もあります。実習に来た生徒はこの就業技術科の三年生です。校内見学では建物の清掃や喫茶店の接客訓練、それと美術の授業等を見せていただき、作業所としてこうした学校とのつながりを大切にしたいと強く感じました。

あいつべイベント中止で

秋のバザー商戦が大ピンチ！

「バザー商戦に異常ありー」 水揚げは3件で7万円余り。

です。例年、秋のバザー商戦は9月の「若狭野祭」からスタートしますが、今年は台風の影響で中止になりました。10月に入り「相看学校祭」とイオン赤穂での「ウィズin西はりま共同販売会」は例年通り開催されましたが、11月の勤労感謝の日に行われてきた「本町バザー」が今年からなくなってしまったのです。

さらに12月の障害者週間(12/3～9)に因んで行われてきた「あいあいの集い」も今年からなくなるとのこと！結局、今年の秋のバザーは10月の2件だけでした。ただ、バザーではありませんが、赤穂の荒神社獅子舞保存会よりの例年通りおでんの注文があり、これも合わせて今年の

必要があるようですね。 どうやら戦略を練り直すーの機会が減る見通しです。



10月イオン赤穂での販売風景

第37回 あいあいスポーツ大会に (10月27日 那波中体育館) 8名が参加！

毎年恒例のあいあいスポーツ大会が那波中学校の体育館で行われ、作業所からは家族会の三木会長に職員2人、利用者5人が参加しました。冒頭の選手宣誓は当作業所のOさんが女子選手代表をつとめた他、総合司会は毎年続けてもう10年になるMさんがつとめました。みんな他の施設の人たちとともに輪投げや玉入れ、デカパン競走などいろいろな競技をして賞品をもらった後、作業所にもどって一緒に“ホカ弁”をいただき楽しい半日を過ごしました。

編集 後記

寒くなってきました。どうか暖かくしてお過ごし下さい！

今回も冬直前に「秋の号」を何とか間に合わせる形となりました。毎号遅れ気味で済みません。それでこのたびホームページの更新を行ない、トップページのトップピックス欄に直近の出来事の記事を載せるようにしました。最新報道はぜひこちらをご覧ください。

平成30年度上期 運営委員会 を開催

9月14日、今年度上期の運営委員会が例年どおり、相生市社会福祉課と赤穂健康福祉事務所から来賓をお招きし、作業所からは理事長と理事が2名、職員3名、利用者代表の2名、計9名の出席で開かれました。

報告では、猛暑による利用者の欠勤増加から収入が激減しており、6月の総会で言われた「昨年に続き今期も黒字決算をめざす」との方針が非常に危ぶまれる状況であること、そうした現状打開のため新しい試みとして個々の利用者との面談によるケアを重視した医療連携体制を考えていることなどが話されました。

討議では、医療連携についての質問や意見が多く出され、目下、市内の訪問看護ステーションを回って連携を模索しているが、既存の訪問看護はもっぱら高齢者を対象としているため、実現困難な状況が明らかにされました。しかし、神戸や姫路には障害者に特化した訪問看護をしている業者もあり、今後とも地域の枠を広げてリサーチを続けて行くことが確認されました。

次回の運営委員会は2月の予定です。